



南さつま市立川畑小学校

所在地：南さつま市加世田川畑4257番地 ●学級数：6学級
電話番号：0993-53-3050 ●児童数：48人



特色ある活動

- ・少人数のよさを生かした学習指導
- ・自然豊かな体験活動（米作り、カボチャ栽培、大谷川自然観察会）
- ・ボランティア活動（あいさつ運動、高齢者への花苗配り、校区清掃）
- ・伝統芸能「お城が山踊り」の継承
- ・南さつま市小規模校入学特別認可制度校（特認校）

事業実施概要

10月21日（木）

10:30~12:05	児童ワークショップ（全児童）	45人
15:35~16:45	教職員セミナー	8人

※保護者・地域ワークショップは、新型コロナウイルス感染症等の影響により中止

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

人権尊重の精神に基づいて、差別や偏見をもたず、豊かな心を持ち、互いに認め合い、共に伸びようとする実践力のある子どもを育てる。

(2) 本校の児童の実態

- ・素直で明るい子どもたちが多く、異学年の交流も盛んである。
- ・限られた人間関係の中で生活しているため、他者への気遣いにより自分の思いを伝えられなかったり、多様な考えを受け入れる柔軟性が不足したりしており、豊かな人間関係づくりに課題が見られる。

(3) 人権同和教育の取組

- ・いじめについて考える週間の実施（4月，9月，1月）
- ・学校楽しいーと、アンケート（年5回）の実施と結果の共有および共通実践
- ・道徳授業参観（12月）
- ・人権教室の実施（12月）
- ・県人権教育課から講師を招いた職員研修
- ・「ふわふわ言葉」の掲示
- ・「人権の花運動」への取組として、学級園、一人一鉢、学校田を活用し、年間をととした「ひまわりの花」の育成

2 事業応募への思い

本校の実態として、自己肯定感が低かったり、多様な価値観を受け入れられなかったりする児童が多い。また、児童間の人間関係における優位性により、周囲へ気遣いができない児童も若干名いる。

そこで、男女共同参画の視点から児童が自己肯定感を高め、互いの人権を尊重し、更によりよい人間関係を構築してほしいという願いをもとに、職員・児童・保護者の人権意識の向上を図り、同じ視点で児童を育てていきたいと考え、本事業に応募した。

実際に取り組んで

1 児童を対象としたワークショップ ～子どもたちの感想～

絵をかくことが楽しかった。（1年）

色々なことがわかった。（1年）

しゃべらないで活動するのが心に残った。（1年）

わくわくして楽しかった。（1年）

わからないことがあって大変だったけど頑張った。（1年）

男女共同参画がわかった。（1年）

人をいやがらせたり、いじめたりしたくないと、心がそうしていました。（1年）

絵を書いたり、ゲームをしたりしてとても楽しかったし、点をかくのも楽しかった。（2年）

左手で書くのは難しかった。（2年）

チームが背中の色を教えてくれた。（2年）

女の子だから男の子だからと決めつけないようにしたい。（2年）

とても楽しかったです。また、めぐさんに川畑小学校に来てもらい一緒に勉強してほしいと思いました。また、来てくれたらいいなあ。最後のあいさつはどきどきしたけどしっかり言えて良かった。楽しかったです。（2年）

個性は人それぞれなんだとわかった。（2年）

人のことをちゃんと考えないとだめなんだと思いました。今日の授業はとても良かったです。（2年）

発表できるか不安でしたが、できて良かった。頑張って90分体育館で座って勉強ができました。めぐさんが優しい人で良かったです。これから、めぐさんが言ったことを生かして使いたいです。（2年）

今日はとても楽しかったです。（3・4年）

いじめに気をつけることが大切で人をなくったりしてはいけません。はいじめないことを教えてくれてありがとうございます。（3・4年）

グループで発表をする時、不安になりましたが、みんなが、「いいよ。」と言ってくれたので勇気が出ました。これからも頑張って発表していきます。人によってちがうんだなあと思いました。（3・4年）

人と違うことで、たくさん発表をしました。これからも頑張りたいです。（3・4年）

左手で書くのは難しかったです。色々な活動が楽しかったです。発表はどきどきしましたが勇気を出してできました。絵をみんなで見せ合っただけ楽しかったです。（3・4年）

質問が同じでも、みんな考えていることが違うということがわかりました。だから、意見が違っても「それは間違い」としてしまわないようにします。（3・4年）

男女はどちらが偉いなどというのはなく、男女が平等なことがわかりました。（3・4年）

いろいろなわたしメッセージを教えてくださいありがとうございます。（3・4年）

みんなと仲良くあそびたいです。自分ができないじゃなくて、できることをたくさんして、生かすことができてとても嬉しかったです。これからも自分がはじめての事も頑張っていきたいです。（3・4年）

色々な学習ができて嬉しかったです。めぐさんから教えてもらったことをぜひやっていきたいです。ありがとうございました。（3・4年）

男女共同参画の勉強で「人はちがっていてもいい」と言うことを学びました。今日から差別をしないで、仲良くしたいです。自分がいやなことは人にしないと思いました。（3・4年）



男の子がえらい、女の子がえらいではなくて、みんな平等にしていくことに気をつけます。(3・4年)

友達の差別や悪口を私は少しやっていたので、次からは気をつけたいと思います。めぐさんはとても優しくしたので、これからも優しくしたいと思います。(3・4年)

私は、みんなと話をするのが少し苦手です。でも、今日学べて良かったです。これからも頑張りたいです。(3・4年)

とてもわかりやすく教えてくださって嬉しかったです。ゲームがあったのも良かったです。私はひどいことを言っていたのでこれからは、理由を言って人を傷つけないようにします。生活にいかせることがこれからはできるようになることを教えてくださりありがとうございました。(3・4年)

人には色々な性格や外見があるけど、その外見や性格は変えにくいことがわかりました。(3・4年)

「みんなちがってみんないい」ということを学んだ。性別によって区別しないということ。それは自分の個性であり、みんな違う。けれどそれでみんないい。そういうことを知ることができました。人が「それ違うよ。」と言っていたら今日のこのことを教えていきたいです。また、私自身も「それちがうよ、そんなやり方駄目だよ。」ということばを使わず、「この意見もいいけど、これはどうかな。」と声をかけていきたいです。(5・6年)

「みんな違ってみんないい。」ということばが心に残りました。グループ活動が楽しかったです。(5・6年)

毎日の生活に必要なことを教えていただきありがとうございます。ぼくは、自分基準で考えてしまう時が多かったので、これからはみんな基準にして、一人一人に優しく接していきたいと思っています。今日は心から感謝します。(5・6年)

私は、「ちがいはまちがいでいい。」ということばが心に残りました。なんだか応援されているような気持ちになりました。わたしメッセージとあなたメッセージは例をあげて説明して下さったのでとてもよくわかりました。使うことが多いので、心にとめておきたいです。これからは、わたしメッセージで会話していこうと思います。とても楽しい授業になりました。(5・6年)

絵を書いた後、見せ合う活動が心に残りました。全く同じ指示を受けたのに、書いている絵は違う。一人一人の考え方が全く違うんだということです。(5・6年)

性別や年齢によって区別している人が多くいるということ。びつくりしました。絵を書くのはとても苦手だったけど、心配せずに書くことがこんなに楽しいということに気がつきました。本当にありがとうございました。(5・6年)

ぼくたちのために色々教えていただきありがとうございます。めぐさんに指示されたことは同じでも、みんないろいろな特徴があって違っているということです。(5・6年)

ぼくが、今日学んだことは「ちがいはまちがいでいい。」ということ。今までは「ちがいはまちがいでいい。」だと思って勇気が出なかったけど、今日の学習で勇気が出ました。家に帰ったらまっさきに、お母さんに言って生活に生かしていきたいです。ありがとうございました。(5・6年)

同じ事をしていても、人は全然、心で思っていることは違うんだと思いました。また、あなたメッセージやわたしメッセージをしっかりと行っていたと思います。発表で「他の人と同じ意見でなかったらどうしよう。」と思っていましたが、これからは積極的に手をあげて発表をしようと思います。ありがとうございました。(5・6年)

2 教職員を対象としたセミナー～教職員の感想～

ワークショップの目的と意義を共有しました。

1年生から参加理解できる内容で、われわれにはなかなか教えることができないことをかみくだいての中身に驚いた。この内容においては、他団体の学習等を受けていたので、更に理解を深めることができた。

子どもたちに同じ指示をしても、指示の受け取り方や受け取る気持ちもそれぞれであることが分かった。同一の指導や声かけではなく、できるだけその子に即した対応ができるように気をつけていきたい。

「すみっこ」「はらっぱ」の時間や場を確保しながら、子どもたちが伸び伸びと学校生活を送れるようにしていきたいと思った。また、沢山ほめて認めていくことを積み重ねていき、子どもたちの自主的な行動を促すために「待つ」こともしていきたい。貴重な機会をありがとうございました。

自分の価値観で物の見方や行動の仕方を押しつけていることが多いなあと思えて反省をした。「みんなちがってみんないい。」は、私の好きなことばだが、それが相手にきちんと伝わるような声かけや行動を心がけていきたいと思う。

本日の研修は、今までの自分の考え方が変わってしまうほどの内容であった。まず、ワークショップを見ながら1年生が行動できるかが心配でした。しかし、子どもたちは、自分のもっている力を使って行動することができて嬉しく思いました。子どもたちは、全てのことが、毎日初めてのことだと思おうにしたいです。今後は、拍手をどんどんして、子どもにも、自分にも勇気をあげたいと思いました。ほめる時も言語化して、子どもたちも自分もほめる毎日を目指したいです。

お話の中に、心に突き刺さるものがあり、はっとしました。子どもに指導する立場の自分が、誰よりも人権無視のひどいことばを数多く発しているのではないかと。自分では、良いこと、大切なこと、勝手に決め込んで「これは素晴らしいこと」「これはだめなこと」と常に自分の価値観で子どもたちのことばをジャッジし、それらを伝えてしまっていました。もっと心に余裕をもたなければ、子どもの言い分に言い訳と決めつけず、その行為の根本にある感情にも目を向けようと思いました。簡単なようで実行するのは難しいかもしれませんが、明日子どもたちを前にしたら実践してみます。ありがとうございました。

自分が日頃YOUメッセージで伝えていることはないかと反省しました。また、大人には当たり前でも子どもたちには初めての経験が多いこと、参加することが学びであることを再認識しました。「違いがあって当然。」子どもたちが自他を大切にできるスキルを身に付けることができるよう私たちも人権意識を高め、行動に変えていきたいと思えます。「マイナス1の思考」信じて待ち、引き出せるように。心に残ることばでした。今日は学ぶことが多くありました。ありがとうございました。

本日は丁寧な学びを進めてくださり誠にありがとうございました。職員の感想から、日頃の児童との関わりを振り返る姿、学びを日常に生かそうとする姿に変容していたことに喜びを感じました。また、児童の感想を見ると、1年生の理解が難しかったのかも知れませんが、どの子も学びを理解しようと努力し、楽しんでいく姿がわかります。また、最後に生かそうとする感想が沢山見られましたことは、とても有り難いことです。感想の中に、「自分基準ではなくみんな基準で一人一人に優しく接したい。」「みんな違っていいんだ。ちがいは間違いではないんだ。」「絵を見せ合う活動から、全く同じ指示を受けても一人一人の考え方が違えばいい。」など、相手や自分を肯定する心へと変容し、多くの気づきをいただいていた。また、本日の学びに感謝できていることも素敵な変容です。本日のご指導、ご準備に深く感謝いたします。



3 保護者・地域の方々を対象としたワークショップ

※新型コロナウイルス感染症等の影響により中止

地域の方々等への事業取組の周知

- ・11月発行の「学校だより」に掲載
発行部数 500 枚、川畑小学校全戸数・校区内住民へ配付
- ・学校の HP に写真と添えて、取組の様子の紹介
- ・12月発行の市報「南さつま」に掲載
発行部数 17,000 部、南さつま市全戸数配付

事業を終えて～今後の取組など～

今回の男女共同参画の広場のワークショップでの高崎先生との学習を通して学んだ「ちがいはまちがいでいい」ではないことを、繰り返し声かけをしていきたい。児童の取組も姿や教職員を対象としたセミナーを通して、教職員として、人としての人権意識を高めることができた。子どもの人権及び関わる人々の人権を尊び、誰もが幸福である学校現場であるよう日々の実践につなげたい。保護者・地域への啓発など学校が果たす役割について課題はあるが、今後も学校・家庭・地域が手を取り合って、児童が安心して「自分らしさ」を発揮することができるよう日々の実践に取り組んでいきたい。



学校だより12月号



南さつま市報 12月号



長島町立鷹巣中学校

所在地:長島町鷹巣1687 ●学級数:6学級
電話番号:0996-86-0003 ●生徒数:109人



特色ある活動

- ・美しい環境作り（花育て,無言作業,ボランティア・スピリッツ活動）
- ・お互いを認め合える活動の推進（生徒会を中心にした挨拶運動,仲間作り活動）
- ・自己肯定感を高める活動の推進（法教育,いじめ問題を考える道徳教育,人権学習）
- ・郷土への想いを深める活動（強歩大会,地域探訪,長島検定）

事業実施概要

12月2日(木)	15:40~16:40 教職員セミナー	14人
12月9日(木)	10:40~12:30 生徒ワークショップ(全校生徒)	104人
	14:10~15:00 保護者・地域ワークショップ	17人

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

- ・差別の現実に深く学び,人権問題や同和問題への正しい認識を深め,研修,実践を積み,共通理解の上に立ち,人権尊重の教育に努める。
- ・人間尊重の精神を基にし,豊かな心情をもち,支え合い,認め合い,ともに伸長する実践力のある生徒を育てる。

(2) 本校の生徒の実態

本校は,純朴で元気な生徒が多い。幼少時から共に地域で育ってきたこともあり,異学年交流も含め,人間関係は比較的良好である。一方,馴れ合いから生まれるコミュニケーション力不足で対人関係に課題のある生徒も見られる。また自分の思いや考えを自信をもって発表することが苦手な生徒も多い。

(3) 人権同和教育の取組

- ・いじめ問題を考える週間(4月,9月)と人権週間(12月)の取組
- ・いじめアンケートの実施(毎月)
- ・人権に関する作文,標語,ポスターの作成
- ・人権同和教育についての職員研修(5月,10月)
- ・水俣病資料館への訪問(1年生9月)や平和学習(2年生5月,9月)
- ・生徒会によるいじめのない学校作り宣言
- ・人権問題に関する新聞記事の提示
- ・人権同和教育に関する外部研修会への参加

2 事業応募への思い

生徒達は幼少時から共に地域で育ってきたこともあり異学年間や男女間の仲も良いが,その一方で親しさから言葉や態度がきつくなるなど遠慮がないコミュニケーションをとってしまう。また自分に自信がもてない自己肯定感の低さも見受けられる。互いの人権を尊重し,より良い人間関係を築くことができるようになって欲しいという願いと共に,保護者や教職員の人権意識や人権感覚を高めたいという思いから本事業に応募した。

実際に取り組んで

1 生徒を対象としたワークショップ ~子どもたちの感想~

1人1人の考えや思いが違うということは間違いないが,次のステップにつながるヒントになるのだと僕は思いました。違うということを攻めたり,自分の意見だけを押し通したりするのではなく,お互いが違うということを大切にしながら尊重し合っていくことが,人と上手に関わるカギなのだなと思いました。(1年)

最初から最後まで色々な活動が多かったので,楽しく授業を受けることができました。今まで発表するとき間違っていたらどうしようと思い,発表しないことが多かったけれど,今回の授業で違っていても良いということが分かって,とても心が軽くなりました。これから私は,人の違いをバカにする人には「いけないことだよ!」と強く言うのではなく,「違うから良いんだよ。同じだったら楽しくないじゃん。」と優しく声をかけて,みんなで大きな輪を作っていきたいと思いました。(1年)

今回の活動を通して様々なことに気がつくことができました。同じ指示で絵を描いても同じ絵にはならないことを知りました。これは1人1人の感じ方,考え方,捉え方には違いがあるからであり,それが個性だということに気付くことができました。(2年)

私たちにはそれぞれ個性があるので,もし誰かがみんなと違っていても受け入れて認めてあげることが大切だなと思いました。恥ずかしいとか間違いたくないという気持ちを少しでも変えて行動できるように,色々なことを進んでやっていける人になりたいです。性別,年齢に関係なく,みんな同じように接することができるようにしていきたいです。(2年)

最初はどのような活動が全くよく分からない状態でスタートした。だけど時間が経っていくにつれて面白くて,相談ののっているような感じで,とても嬉しかった。私はめぐさんがこの鷹の中の人に寄り添って話してくれて,とてもすごいなと思いました。(2年)

私は人前が苦手です。「否定される=間違い」と思っていたことに,今日気付くことができました。これからは否定されることを恐れずに人前で発表しようと思います。自分も否定的なことを言うときは,相手を主語にして強く上がった言い方をしないようにしようと思います。(2年)

恵さんが「意見を発表してください」とおっしゃった時に,手を挙げる人が数名だけだった。そのくらい私たちが意見を出しにくい環境を作ってしまったんだと感じた。これからは,今日学んだIメッセージを使って違いを大切に,少しでも多くの人が意見を出せるような環境にしていきたいと思います。(2年)

いつも人前では発表しなかつたりするけど,自分の気持ちを伝えると,すごく気分が良くなりすっきりしました。間違えることは怖いけど,それでも自分の考えや気持ちを伝えることは大切ということが分かりました。それぞれ個性が違うので,自分も頑張っていきたいです。(3年)

僕は人についてあまり考えたことがなかったので,今日の授業は印象的でした。特に印象に残ったのは,背中にシールを貼り,声を出さずにグループ分けをしたときのめぐさんの「色で分けなくても,形で分ければいい」という言葉です。人と違うのは当たり前。人との共通点を見つけることを学びました。(3年)

自分と違うところが多い人もいると思う。それを差別するのではなく個性として捉えて向き合うことが大切だ。バリアフリーやユニバーサルデザインのように障害をもっている人もそうでない人もみんなが過ごしやすい世の中にしていき,笑顔の増える未来にしていきたいです。(3年)



2 教職員を対象としたセミナー ～教職員の感想～

ワークショップの目的と意義を共有しました。

生徒に対して気をつけているつもりでも、気付かないうちに決めて考えていたり、カテゴリーに分けて考えていたりする場面が日常的に多々あると感じた。新しいことには慣れていない、初めからは上手くいかないなど当たり前なはずなのに、これくらいならと思うこともよくある。一人一人をそれぞれで見てあげなければいけないと強く感じる時間だった。これからの生徒の声掛けを変えていきたいと思う。

「本事業を受講したことで、男女共同参画についての知識や理解が深まったか？」の問いに「深まった」と「満足した」と回答しましたが、「充分か？」というまだまだ自分の凝り固まった頭には足りないと思います。何事も学習を続けたいといけないのかなと思います。そう考えさせていただき貴重な時間でした。ありがとうございました。

「違い」は「間違い」ではない。確かにそうですが、学校生活では毎日の違いに気付いて認め合ったり、声掛けしたりする心や時間のゆとりが中々ないのも現状です。忙しいや疲れた毎日、今回のお話は自らの心に向き合い、はっとさせられる時間になりました。一人一人の違い、良さを認め合う生徒を育てるためには教員側の意識の高さが必要であり、その感覚を磨き、時々自分をふり返りながら戒めつつ、生徒のためにやっていきたいと思えます。ありがとうございました。

以前、高崎さんのお話を聞き、攻撃的なYOUメッセージから違いを認めるIメッセージを心がけようとしてきました。しかし今回、改めてお話を聞く中で、自分の学びが「否定をしない」という思いに留まっていたように感じました。多様な考えを対話によって1つにまとめ、「私たちの考え」を作っていく。色々な立場の人が活躍できる社会づくりを私たちはしていかなくてはならないし、その方が住みやすい社会になっていくと思えました。対話を大切にしていきたいです。

高崎先生の上手なトークに引き込まれ、とても楽しく学ぶことが出来ました。ワークショップでは「次は何をするんだろう？」「これで何が分かるのかな？」とワクワクしました。「ちがいは」「まちがいは」ではないという言葉がとても心に残りました。一人一人違うのが当たり前なんだということを改めて感じられる、とても貴重な時間でした。ありがとうございました。

生徒の反応もとても良く、楽しそうかつ真剣に取り組んでいて良かった。ワークショップの翌日の道徳や教科の授業でも積極的に意見を言える生徒が増えた。定期的に行えると、さらに生徒や教職員の人権感覚が向上するのではないかなと思う。

教師にとっても生徒にとってもワークショップという形態（体験型）で人権の大切さについて深く考えることのできる機会になったと思えます。取組の成果を今後の教育活動に生かしていきたいと思えます。

Iメッセージを心がけた指導に努めるような意識が職員にも周知されたと思う。自らも意識した日常にしたい。

YOUメッセージにならないよう、Iメッセージを心がけたいと思えました。



3 保護者・地域の方々を対象としたワークショップ ～保護者・地域の方々の感想～

子どもたちが体験したワークショップと同じ内容で実施しました。

身につまされるお話が多かった。出来ないことを認知するのは、大人になると余計に難しいと感じる。知っているふり、出来るふりで「助け」を遠ざけてしまっていたのだな、損していたと思った。子供への愛情のかけ方も、お金やスキンシップ等いろいろあるけど、確認行動する為、子供と向き合っ時間を割くことこそ愛情かなと思った。

大人になってからも話合いが苦手な理由が分かった気がしました。家庭でも毎日時間が無く、子供とじっくり話ができないので、自分の思いや子供の気持ちを伝え合う時間をぜひもちたいと思えます。貴重な話を聞かせていただき、ありがとうございました。

子供との関わり方を考えさせられる時間でした。出来ないことを恥じるのではないと子供にも自分にも言い聞かせたい、正直なことが大切だと思えました。

高崎様の元気さと説明がとても分かりやすく、勉強になりました。まずは子供との確認しやすい関係性をつくれるように、自分の気持ちに深呼吸を入れてIメッセージできるように頑張りたいと思えます。とても元気の出る講演会でした。ありがとうございました。

今までYOUメッセージを感情的に伝えることが多く、伝わらないことに苛立つ日々でしたが、子供を主体に考えて伝えることに心がけたいと思えました。

「男の子なんだから！」「女の子なんだから！」ということが多くなり、反省しました。これからはIメッセージを意識して、子供達への声掛けをしていきたいと思えます。ありがとうございました。

とても楽しかったです。子育てをしていく上で、YOUメッセージばかりを発していました。Iメッセージを伝えていきたいです。ありがとうございました。

ちがいがあって当たり前なのに、なぜか同じということに、知らないうちにこだわっていたのかなあと思えました。YOUメッセージを子供によく言っていたので、これからはIメッセージに変えて伝えていこうと思えます。子供との時間も作ろうと思えます。

保育士として働いている。職場でも、子供でも人権がある、1人の人として、と研修などを受けているが、又学ぶことができて良かったです。YOUメッセージよりもIメッセージ。子供が学んだことを一緒に受けることができて良かったです。しっかり意見の理由まで伝えるようにしたいです。



参観した方々

今回の講話で印象に残ったことは、確信が減ると時間が奪われる、失敗が増えるということです。私は現在の仕事について1年ほどになりますが、まだまだ初めてのことが沢山あります。自分で勝手な判断をせず対応しなければいけないと思えました。私はまだ子供がおりませんが、子供が生まれたらYOUメッセージで叱るのではなく、Iメッセージで語りかけて、人を想いやる子育てをしたいと思えました。地域の男女共同の取組を知る良い機会でした。次回はぜひ生徒ワークショップにも参加したいです。

地域の方々等への事業取組の周知

〈事前周知・広報〉

- ・コロナ禍の中だったので、地域の方々への事前案内は行わなかった。
- ・保護者へは一次案内と学級通信の裏面を使った二次案内を行った。

〈事後の広報〉

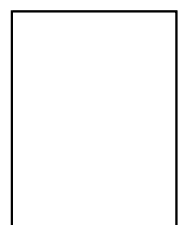
- ・12月号の学校だより、各学級の通信等に写真や感想を添えて取組の様子を紹介した。
- ・TV放映の日程を学校だよりやマチコミメールで紹介した。
- ・新聞及び県の広報番組で実施状況の紹介が行われた。



◀学校だより12月号



保護者への案内文書



南日本新聞R3.12.19

事業を終えて～今後の取組など～

「他人と違うこと＝間違い」であるという強い思い込みから、私達は意見を言いがちな環境を自分たちで作り出してしまっている。シジエカキで仕上がった絵を見て生徒達は、「ちがいは個性である」「ちがっているから面白い」という言葉に実感を伴って共感していた。またワークショップに取り組む態度や感想の発表に対して肯定的に評価してくれるめぐさんに、多くの生徒が勇気づけられ、自尊感情を高められたようである。学習の後は、いつもより勇気を出して自分の意見を発表しようとする姿や他者に対して「Iメッセージ」を使って丁寧にコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られた。子供だけでなく保護者や教職員もワークショップに参加し、自分自身の言動を振り返り、人権感覚を磨くことができた。今後も学校、家庭、地域と連携して、より良い人権感覚を身に付けた生徒を育てていきたい。



霧島市立牧園中学校

所在地：霧島市牧園町宿窪田751-1
電話番号：0995-76-0021

●学級数：4学級
●生徒数：105人



特色ある活動

- ・認め合い、高め合う生徒の育成
- ・自分や学校でできるSDGsへの取組
- ・九面太鼓を通した伝統文化の継承（3年による文化祭での発表）
- ・年間を通した読みみかせ等による読書活動の推進
- ・道徳や人権教育を通した心の教育の推進

事業実施概要

7月14日（水）

10:45~12:35	生徒ワークショップ（全生徒）	97人
14:00~15:30	保護者・地域ワークショップ	15人
16:05~16:45	教職員セミナー	9人

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

基礎学力の向上と基本的人権を尊重する教育の実践をとおして、人権・同和教育に関する認識や理解を深め、人権尊重の精神を涵養するとともに、社会の中のあらゆる差別や偏見を取り去り、自分の人権を守るとともに、他の人の人権を守ろうとする実践的な態度や能力を育成する。

(2) 本校の生徒の実態

- ・明るく素直で元気であり、指示されたことは一生懸命取り組んでいる。
- ・「健康と安全はすべてに優先する」のスローガンのもと規則正しい生活を送ろうとしている。

- ・「勇往邁進」を生徒会のスローガンとし、学校行事の成功を目指したり日常的な活動に精一杯取り組んだりしている。
- ・自分の思いを伝える能力がやや弱いため、誤解をまねき時々トラブルが起きることがある。

(3) 人権同和教育の取組

- ・全教育活動を通した人権学習の実施
- ・生徒会活動で人権週間における啓発運動の推進
- ・国語科における人権作文や人権標語の募集
- ・人権週間において、外部から講師を招いての人権教育の実施
- ・学校便り、学級通信、PTA、家庭教育学級等での保護者や地域の方々への人権に関する啓発

2 事業応募への思い

本校の生徒は、生徒会活動、学校行事、部活動等において積極的に取り組み成果を上げていると言える。また、本年度から全学年に導入されたタブレットを活用し、授業においても積極的に取り組む態度が見られる。さらに、最上級生の3年生が様々な場面で自覚を持ってリーダーシップを発揮しているので、1・2年生は3年生を模範として尊敬している様子が見られる。

しかしながら、生徒には自分の思いを伝える能力がやや弱いため、誤解をまねき時々生徒間でトラブルが起きることがある。そこで、本校の学校長とご縁のある高崎先生にご来校頂き、生徒、保護者や地域の方々、教職員でワークショップを実施し、男女共同参画の視点から、学校内、学校間、家庭、地域など、広く連携して人権に関する問題の解決や、望ましい社会作りに参画していこうとする意欲の態度を育成したいと考え、この事業に申し込みをした。

実際に取り組んで

1 生徒を対象としたワークショップ ～子どもたちの感想～

最初にお話をされていた、なぜ人は発表をしたがらないのかで、「相手との違いが怖いから」とおっしゃった時に、たしかに自分も周りの人と違う意見があると恥ずかしくなったり、複雑な気持ちになるなと感じていました。でもその対処法が「自分の考えを大切に！（一つのものの受け取り方はそれぞれ違う）」と言うことを聞いて、これからこの言葉を胸に刻み、少しずつでも自分自身を変化させていきたいなと思いました。その後に行った黙って絵を描く、黙って仲間を探すゲームでは、最初「自分は人と違うことをしていたらどうしよう」と思っていました。先程の言葉を生かして、自分が思うように行動するというのは気持ちがとても楽でした。このように、言葉をこれから意識して生活していきたいなと思いました。（1年）

先生のおっしゃる言葉一つ一つにとても意味を強く感じて、自分たちに当てはまっているなと思いました。すごく感心してなるほどなとたくさん思っても興味をもちました。みんながあまり発表したくない理由など初めて知ることがたくさんあって楽しかったです。相手が傷つけないようにIメッセージを使うことは、とても必要だと思いました。友達を褒めてあげたり、仲間を大切に思うことの重要性を改めて知ることができました。人権については今、社会で習っているところで、習ったことの復習や、逆に予習になる部分もありました。全然飽きなく、とても楽しくワークショップを終えることができました。本当に学んだことが多くて、これからの生活にどんどん生かしていきたいです。友達にはたくさんIメッセージを使っていきたいです。悪いことをしている人には注意をしていきたいです。（2年）

今日の授業を通してたくさんのお話を学びました。私は発表が好きではありません。でもそれは過去に笑われたことがあったからです。今日来てくださった先生は何もかも分かっていてくれました。その中でも心に残ったのが、「発表しやすい雰囲気づくりをしよう」という言葉です。確かにみんなの目や表情でしにくいのかなと考えました。過去に笑われたり「違う」と言われた人がいても、優しい表情やちゃんと聞く心をもてば、自然と発表しやすい雰囲気になるのではないのかなと思います。今日の授業は納得ばかりの授業でした。（3年）

私はこの子どもたちの男女共同参画学びの広場に参加してとてもよかったです。なぜなら、普段から男子だから重い物を持ってよねや女子だからきちんとしなさいなどたまに聞かれます。でも、男子で重い物を持ってない人や女子で重い物を持って人もいるだろうし、男子もきちんとしないとイケないと思います。だから、女子だから男子だからと決めないで平等になってほしいです。私はYOUメッセージを使ったり、言われたりよくします。でも、YOUメッセージを使ったときはあまり感じませんが、実際言われると嫌な気持ちになります。これからは、Iメッセージを使い、相手をできるだけ嫌な思いにさせたくないです。そして、クラスのみならずで話しやすい雰囲気を作れたらいいなと思います。（3年）



2 教職員を対象としたセミナー ～教職員の感想～

ワークショップの目的と意義を共有しました。

違いをこわがる気持ちが自分にもあると気づきました。違いは宝であること、共感豊富さをうむことを知りました。ありがとうございました。

多様性のこと人と違っていいということ気づきがありました。他者とのコミュニケーションのためには、まず、自分のことが分かることが必要。仕事の面でもY O Uメッセージになってしまっていると感じました。

今日はIメッセージ、Y O Uメッセージの違い。Iメッセージの大切さを教えていただき、コミュニケーションの苦手な子供たちへと伝えていきたいと思う。

一人一人の違いを認め合いIメッセージで伝えることの大切さ、とても参考になりました。恵さんありがとうございました。

再認識の機会となり、又、楽しく参加させていただいたことに感謝です。私としてはIメッセージを大切に今後も一歩ずつ進めていくことが大切だと思います。

最近、自分を顧みるとき、確認行動が少しない為に失敗が多い。だから、確認しやすい環境づくりが大切なのだ実感しました。

今日の講義でIメッセージの大切さを教えていただき、コミュニケーションの苦手な子どもたちへと伝えていきたいと思いました。

小規模な学校でみんな仲が良く、気持ちの優しい生徒が多い本校である。しかし、時にはケンカをしたり、相手を傷つけるような言葉を発したりする時もある。まだ、経験の少ない生徒たちなので、社会で生きていくために様々な力を付けていただける機会をいただき感謝します。我々教員もこの経験を生かす目の前の生徒の成長をサポートしていけたらと思います。本日はありがとうございました。



3 保護者・地域の方々を対象としたワークショップ ～保護者・地域の方々の感想～

子どもたちが体験したワークショップと同じ内容で実施しました。

もっと聞きたいと思いました。気がかされる事がいっぱいです。一人一人違うという事や子供たちは毎日が初めてという事が、ハッとさせられました。家族みんなに聞いて欲しい話でした。

校長先生のおすすめもありとても興味がわき参加させて頂きました。何か自分もまだまだ足りない所があり、子育てのヒントになればと思い参加しました。言葉かけ一つで全く違う思考になる事を学ばせて頂きました。さっそく、Iメッセージを心掛け、実行していきたいと思えます。ありがとうございました。

男女共同参画という言葉は知っていましたが、今日のワークショップを受けてとても深い内容だったと思います。Y O UメッセージからできるだけIメッセージに変えていける様に、私自身も頑張っていこうと思います。子供たちがもっと自分に自信をもって生きていける様に少しでも支えていけたらと思いました。

今日はありがとうございました。名前や絵を描いている時に「綺麗に描かないといけないのかな?」とか「正解ってあるのかな?」と不安になる自分がありました。これは、間違えることが恥ずかしいことだという潜在意識だと知り驚きました。そう教育されてきたのでしょうか。肩の荷が下りたのと同時に、子供たちへの接し方への新しい視点を見いだすことができ、とても嬉しかったです。違いこそ宝物…今日からはこれを大切にいきます!

わかりやすくおもしろく大変になりました。仕事柄、小学生と関わる事も多いので未来ある子供たちの為に私自身がもっと学びを深めていきたいと思っています。「一人一人の違い意見。違いこそ宝」も大変よく分かるのですが、それが、ルール違反やマナーを守れないという事とは違うので、伝える側人間もしっかりと考えて伝えていかなければという事。あとひとつ聞きたいのですが、女性しか子供は産めないし、やっぱり子供は多い方がいいし、外国とかどうなのだろうと思いました。もっともっと聞きたい事いっぱいです!!



地域の方々等への事業取組の周知

- 9月発行の「学校だより」に掲載(ワークショップや生徒の感想の紹介)
- 発行部数…約2,500部
- 配布先…牧園中学校全校生徒数、牧園中学校校区自治会各家庭数
- *その他では各学級通信にてワークショップの内容や生徒の感想等の紹介



学校だより9月号

事業を終えて～今後の取組など～

本校は、今年度初めて、校長先生とお知り合いの高崎先生を講師としてお招きし、生徒、保護者・地域、教職員向けのワークショップを開催していただいた。ワークショップでは、「人は違うのが当たり前のこと」、「違いがあるから新しい考えが生まれるし、進歩できること」、「だれにでも初めてがあり、失敗するのが当たり前のこと」、「失敗を笑ったり、責めてはいけないということ」、「失敗をおそれないこと」など、高崎先生の多くのメッセージを聞くことができた。

今回のワークショップの中で取り扱われたIメッセージとY O Uメッセージは、牧園中学校の生徒には深く心に残った様子であった。人間関係で悩むことが少なくない生徒にとっては、自分自身の言葉かけを振り返るよい機会になったのではないかと考える。

また、今回は生徒のワークショップとは別に、教職員、保護者・地域向けに同内容のワークショップが実施された。大人も自分自身のIメッセージ、Y O Uメッセージを振り返り、共感や反省する感想が多く見られた。「さっそく、Iメッセージを心掛け、実行していきたいと思えます。」「Y O UメッセージからできるだけIメッセージに変えていける様に、私自身も頑張っていこうと思えます。」など、大人にとっても多くの学びが得られたことは大きな成果であったといえる。

これを機会に生徒の取り組みを参観するだけでなく、教職員、保護者も共に参加し取り組み機会を増やす努力を行っていかねばならないと考えた。大変お忙しいところ、牧園中学校まで起こしいただきありがとうございました。



始良市立竜門小学校

所在地：始良市加治木町小山田1363番地

●学級数：7学級

電話番号：0995-63-3446

●児童数：49人



特色ある活動

- ・造形教育の推進（龍門司焼の体験学習、学校の登り窯を活用した粘土工作）
- ・食農教育の推進（桜島大根や米作り等）
- ・読書活動の推進（読書タイム・読書月間・親子読書による読み聞かせ等）
- ・始良市小規模校入学特別認可制度校（特認校）

事業実施概要

11月29日（月）

10:45~12:25	児童ワークショップ（全児童）	47人
13:30~15:00	保護者・地域ワークショップ	8人
15:25~16:45	教職員セミナー	10人

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

- ・人権尊重の精神に徹し、偏見や差別をなくして共に伸びようとする意欲と実践的態度を身に付けた子どもの育成に努める。
- ・かかわりの中で差別について考え、すべての差別を許さない学級づくりを推進する。
- ・友達を大切に、一人の問題をみんなで解決することのできる仲間づくりを推進する。
- ・望ましい集団生活を通して、人権尊重の態度と実行力を育てる。

(2) 本校の児童の実態

- ・素直で明るい児童が多い。
- ・児童数が少ないため、縦割り班での活動など学年の隔たりなく過ごしている。

- ・学習や行事等、目標に向かって真面目に一生懸命に取り組むことができる。

(3) 人権同和教育の取組

- ・いじめ問題を考える週間の取組（4月・9月・1月）
- ・校内人権週間の取組（人権標語作り・人権集会・人権に関する本の読み聞かせ等）
- ・職員研修の取組（年3回）
- ・特別の教科道德の授業参観
- ・人権意識の向上へ向けた全校朝会での講話
- ・人権教室の開催

2 事業応募への思い

本校は小規模校で異学年との活動も多く、比較的児童の仲がよい。また何事にも素直に真面目に取り組む様子が見られる。しかし、少人数であることで人間関係が固定的になり、「〇〇さんはこういう人」といったステレオタイプで互いを見ってしまう傾向が見られる。一人一人の「ちがいを豊かに重ね合うことで新しい価値を見つけれられる児童の育成を目指して、本事業へ応募した。

実際に取り組んで

1 児童を対象としたワークショップ ～子どもたちの感想～

きょうは、わかりにくいことばもあつたけれど、たのしくくしゅうできたとおもいます。おうちの人や学校の人にわたしメッセージをいいたいです。（1年）

きょうは、シールのいろわけをしたのしかったです。みんなでなかよくすごすには、わたしメッセージでいえばいいとわかりました。（1年）

わたしは、めぐみ先生が言っていた、女の子なのに〇〇もできないのや、男なんだから〇〇できないとダメだよという人が子どもも大人もいるんだなあと思いました。楽しく学べてうれしかったです。（2年）

一人ひとりの感じ方、考え方、やり方にはちがいがあ。それが一人一人の「こせい」なんだということに気づいた。2時間かけて、じっくり教えてくれたのがうれしかった。（3年）

わたしは、よくあなたメッセージを言ってしまいます。でも、この学習をしてあなたメッセージを言っていると相手はきずつことがわかりました。今度からは、あなたメッセージではなく、わたしメッセージを生活のなかで生かしていきたいです。（4年）

わたしは「男子なんだから」や「女の子なんだから」「6年生なんだから」という言葉は言ったらダメなんだと思いました。なので、みんなが傷つけない言葉を使って話していきたいです。そして、ゲームなども入っていて、とても分かりやすく、みんなに学んだことを伝えたいです。（5年）

話し合いでは全員が話し合いに参加し、「あなた言葉」ではなく「わたし言葉」で話したりして、話し合いがスムーズに進みグループの中の人意見一人一人聞くことができました。これまでの竜門小学校は「男子だからこれ持って」「女子だからこれして」などの性別を意識した言葉がたまに聞こえていたけど、今日の男女共同参画学びの広場に参加したことによって、互いに認めあえて、楽しい学校になれればいいです。（6年）

わたしは、自分の背中にはっているシールで色分けすると、先生が言った6つの言葉を図や絵に表すことが楽しかったです。シールの色分けでは、わたしは近くにある物を使って相手に伝えました。6つの言葉を図や絵に表すことでは、みんなとちがいました。似ている人もいました。わたしはこの授業を通して、人それぞれに思っていることや、気持ちがちがうことに気づきました。（6年）



私は、今日の学びの広場を通して、男の子と女の子、学年なので差別しないことが大切だと思いました。私は今まで「男だからできるでしょ」「年下なんだからしてね」などたくさん差別をしてきました。でも今日学んですっかり差別をなくして、色々な人と協力し合おうと思いました。また、自分が相手とはちがうことを、しっかり分かろうと思います。相手の気持ちも自分の気持ちも、どちらも大切に過ごしていきたいです。（6年）

2 教職員を対象としたセミナー ～教職員の感想～

ワークショップの目的と意義を共有しました。

グループ分けで私自身もシールの色にしか目が向いていなかったことに気づきました。形やシールで分けようとは一切思いませんでした。これまでも子どもたちに対してはどうだったんだろうか。しっかり目を向けることができていたんだろうかと考えさせられました。子どもたちの発表に対して、全て肯定的に受け取り、共感している姿がすごく感心しました。心がけてはいてもつい否定してしまうことがあるので、リフレインとリフレインを忘れないようにしたいと思いました。分かりやすく教えていただき、ありがとうございました。

これからの時代は「ちがいが」が大切だと分かっているながらも、日々の授業や子どもたちへの声掛けは「同じようにする」ことを求めるものだとすることに気が付かされました。あなたメッセージでは伝わらないことが多いので、わたしメッセージで子どもたちやまわりの大人に伝えることで、相手だけでなく自分の考えも大事にできると思うので、少しずつ練習していきたい。

子供達のワークショップでの姿から、日頃の授業や生活面での指導についての改善点を見つけることができました。当たり前を再度多面的に見直し、日々の生活の中に生かしていけるよう、意識して行動し、習慣になるように努めていきたいと思えます。多くの気づきをいただき、学ばせていただきました。誠にありがとうございました。

「ちがいを」「まちがいを」として感じてしまうということは自分でも体験したことのあるものでした。実際に今でもこのように感じてしまうことはあります。毎回感じるわけではないので、疑問に思っていました。肯定感を感じられる雰囲気や環境にあったのではないかと思います。今後、自分が教員として子どもたちが肯定感をもてるような場や環境をつくっていきたく感じました。ありがとうございました。

児童への見方、接し方を今日学んだことを思い出しながら変えていきたいと思えました。自分の意見を持って話せる雰囲気を作りたいです。ワークショップで普段見えて思っていた姿と違う子供達の様子を見ることができ、自分の思い込みがあることも感じました。この子はこういう子と決めつけずに、対応していきたいです。いただいた冊子「あなたのココロとカラダを大切に」を読んで、高校生の娘に読ませなければ！！と思えました。県内でこの様な冊子が配布されたり、説明を受けたりする機会があるのでしょうか。大事なことだと思えました。今日は、御多用中、ありがとうございました。

肯定的な空気が多様性を育むことを児童のワークショップを見て感じた。学校全体でそれを醸成できると自他共に認められる児童に育っていくのかなと思えました。今後も多様性と統一性のバランスを保ちながら、児童に接していきたいと思えました。



3 保護者・地域の方々を対象としたワークショップ ～保護者・地域の方々の感想～ 子どもたちが体験したワークショップと同じ内容で実施しました。

今まで家庭でも職場でもYOUメッセージで伝えてしまうことが多く、言った後に後悔することが多かったですが、これからはIメッセージを心がけていきたいと思えました。経験や価値、得意、不得意、様々な人がいるので意見が違っていて当然で、それを対話によって、新しいものを作っていくことがこれからの社会で必要だととてもよい経験になりました。貴重な話、ありがとうございました。

先生のお話にぐっと引き込まれながら楽しく学ぶことができました。ドキドキで不安が強い我が子に「みんな違って当たり前！みんな違って、みんないいの！」「間違ってもいいの！！それに気が付いたことが大事なんだよ。すごいじゃん」と自分にも言い聞かせながら話しています。Iメッセージでつながっていきながら、ぼかぼか言葉を大事にしていきたいです。今日はありがとうございました。

貴重なお話ありがとうございました。早速、冷蔵庫に「Iメッセージ」を貼って練習したいと思います。「自分を認める」「わたしがわたしである」そう思える自分になりたいし、そうあってほしいと思えます。思い込みをやめ、ちがいはまちがいでないと自分に言い聞かせます。

とても楽しく学ぶことができ、あっという間に時間が過ぎていました。つつい性別で決めつけてしまうこともあるので、性別に関係なく物事を考えていけるようにしたいと思えました。子どもに対して命令ではなく、Iメッセージで声かけできるよう、自分でも練習していきたいと思えます。今日は本当にありがとうございました。

とても自分のことに置き換えて、よく身にしみる講義でした。分かりやすく、心に残る話だったので、また是非来ていただきたいと思えます。ありがとうございました。

子供達に対しての声掛けや言葉遣いを改めて考えさせられました。つつい上からの言い方になっていたの、今日の講座を忘れずにしたいです。



参観した方々

子どもたちがワークショップを受けている様子を見て、挙手が増えていたり、グループでの話し合いでリーダーシップをとる様子などを見たりして、子どもたちのもっている力を改めて感じました。「環境が人権」と言います。明るく丁寧な言葉かけで、子どもたちと接することを続けていきたいと思えます。

地域の方々等への事業取組の周知

- ・プロダ
- ・学校便利 全保護者・校区全戸配布



学校便利12月号



保護者への案内文書

事業を終えて～今後の取組など～

子どもたちからは「一人ひとりの感じ方、考え方、やり方にはちがいがいる。それが一人一人の『こせい』なんだということに気づいた。」という感想が見られた。「ちがいが」は「まちがいを」ではなく宝物ととらえ、互いの価値を認めつつ新しい価値を見つけていく意識の芽生えを見ることができた。本校は「自分が好き みんなが好き 学校が好き」を合言葉に、自己肯定感の育成を目指している。「ちがいが」を見つめ、互いにYOUメッセージを送り合うことで、自分だけでなく友達も大切にできる意識を育てていきたい。今回、保護者や教職員を対象とした研修も行っていただいたことで、共通理解のもと児童・保護者・教職員が一体となって人権意識の向上に努めていきたい。